

家庭における中高生の IT メディア利用ルールの実態

Household rules on using IT media for junior and senior high school students

堀内 由樹子¹・熊崎 あゆち¹・樫淵 めぐみ²・鈴木 佳苗²・安藤 玲子³

坂元 章¹・桂 瑠以¹

Yukiko HORIUCHI¹, Ayuchi Kumazaki¹, Megumi KASHIBUCHI², Kanae SUZUKI², Reiko ANDO³

Akira SAKAMOTO¹, Rui KATURA¹

お茶の水女子大学¹・筑波大学²・金城学院大学³

Ochanomizu University¹, University of Tsukuba², Kinjyo Gakuin University³

〈あらまし〉 中高生の保護者 1043 名を対象とした web 調査により、携帯やパソコンからの子どものインターネット利用に対する家庭でのルール設定の状況について調べた。中学生の家庭の方が高校生よりも子どものネット利用のルールを設ける家庭が多いが、設定されたルールの内容は共通性が高く、保護者が子どものネット利用に対して懸念する内容自体には違いがないことが示された。

〈キーワード〉 IT メディア利用 保護者 教育的介入 中高生

1. はじめに

近年、携帯電話などの IT メディアの普及とともに、子どものネット利用に対する対策の必要性が増している。本研究では、中高生の保護者を対象とした web 調査を実施し、家庭での IT メディア利用ルールの実態を把握するとともに、山岡ら(2010)との結果比較により近年の家庭でのルール設定の傾向について考察した。

2. 方法

2.1 調査時期・調査対象者

調査対象者は、中学生の保護者 423 名(男性 193 名、女性 230 名)と高校生の保護者 620 名(男性 336 名、女性 284 名)であった。また、調査は 2011 年 11 月に web 調査により実施した。

2.2 質問項目

子どもの携帯・PC の利用状況 子どもの自分専用の携帯所持、子ども用の携帯のネット機能、子どもの PC からのネット利用それぞれについての有無を回答してもらった。

家庭でのネット利用ルールの有無 携帯電話やパソコンでのインターネットの使い方についての家庭でのルールの有無について尋ねた。①携帯電話利用に関するルール：(1)携帯電話料金限度額の設定(1 項目)、(2)メールやネット機能の使用制限(1 項目)、(3)メールや保存画像の保護者チェック(1 項目)、(4)利用時間や場所ルール(「深夜の利用禁止」、「利用時間の上限設定」、「食事中や家族との時間での利用禁止」、「勉強中の利用禁止」の 4 項目)について尋ねた。②PC 利用に関するルール：(1)閲覧履歴の保護者チェック(1 項目)、

(2) 利用時間や場所ルール(「深夜の利用禁止」、「利用時間の上限設定」の 2 項目)について尋ねた。③ネット利用ルール：(1)通話やメール相手の制限ルール(「家族のみメール・通話許可」、「知らない人との通話/メールの禁止」の 2 項目)、(2)不適切なサイトへのアクセス禁止ルール(「出会い系サイトアクセス禁止」、「成人向けサイトアクセス禁止」の 2 項目)、(3)ネット・コミュニティ参加の制限ルール(「掲示板などへの書き込み禁止」、「親に無断での会員登録の禁止」の 2 項目)について尋ねた。項目が複数あるルールについては、その内 1 つでもルールを設定していれば、「あり」として結果を集計した。

3. 結果と考察

3.1 子どもの携帯・PC の利用状況

自分専用の携帯所持者は、中学生 224 名(53.0%)、高校生 580 名(93.5%)であり、ネット機能付きの携帯所持者は、中学生 162 名(72.3%)、高校生 528 名(91.0%)であった。また、PC からのネット利用者は、中学生 377 名(89.1%)、高校生 571 名(92.1%)であった。

3.2 家庭での携帯・PC・ネット利用ルール

子どもに自分専用の携帯を持たせている保護者の携帯利用ルールの設定状況と、子どもにパソコンからのネット利用を許している保護者の PC 利用ルールの設定状況の結果を表 1 に示した。全体的に中学生の家庭の方が高校生の家庭よりもルール「あり」の割合が多くなっていた。より早期にインターネットを子どもに利用させる家庭は、ルールの取り決めなどにより注意を払ってい

るものと考えられる。

携帯電話に関するルールでは、中学生と高校生どちらの家庭でもルールがある場合が多かった。各携帯利用ルールの有無の割合では中学生の家庭と高校生の家庭でほぼ同様の傾向が見られ、「メールやネット機能の使用制限」や「保護者によるメールや画像のチェック」といったルールは「あり」の割合が少なく、逆に、「利用料金制限」、「使用時間場所制限」といったルールは「あり」の割合が多かった。子どものプライバシーに関わるルールはあまり設定されない一方で、経済や生活習慣に関連したルールは高校生の家庭でもルールが設けられていると考えられる。

PC 利用に関するルールでは、また、高校生の家庭では、PC 利用のルールがある場合が少なかった。中学生の家庭では、「利用時間制限」のルールの「あり」の割合が多かった。

ネット利用ルールでは、「不適切サイトアクセス禁止」と「ネット・コミュニティ参加制限」については、中学生高校生のどちらの家庭でもルール「あり」の割合が多く、高校生の家庭であってもネットトラブルや犯罪の危険が高い利用についてはルールによる制限を設けることで保護者は注意を払っていることが示された。その一方で「通話やメール相手の制限」のルールでは、「あり」の割合が中学生の家庭では多いが、高校生の家庭では少なかった。子ども専用の携帯電話の所持状況が高校生でほぼ全員が持つまでに急増していることから、ネット上での友人間のコミュニケーションの活発化に伴い、高校生の家庭ではこうしたルール設定が状況にそぐわなくなったため、中学生と比べて割合が減少したのではないかと考えられる。

表1 ITメディア利用に関する家庭のルール

	中学		高校	
	専用携帯あり	ネットPCあり	専用携帯あり	ネットPCあり
ルールなし・不明	15(6.7)	67(17.8)	99(17.1)	174(30.5)
携帯利用料金制限	158(70.5)	-	360(62.1)	-
携帯メール・ネット機能使用制限	47(21.0)	-	49(8.4)	-
保護者による携帯メール/画像チェック	66(29.5)	-	68(11.7)	-
携帯利用時間場所制限	174(77.7)	-	307(52.9)	-
保護者によるPC閲覧履歴チェック	-	130(34.5)	-	87(15.2)
PC利用時間場所制限	-	225(59.7)	-	204(35.7)
通話メール相手制限	152(67.9)	210(55.7)	226(39.0)	203(35.6)
不適切サイトアクセス禁止	122(75.3)	246(65.3)	291(55.1)	312(54.6)
ネット・コミュニティ参加制限	129(79.6)	268(71.1)	279(52.8)	306(53.6)

註)「ルールあり」の回答数(%)

3.3 山岡ら(2010)との結果比較

山岡ら(2010)では、携帯所持率が中学生では33.4%、高校生では95.0%で、本研究の方が中学生の所持率が高くなっていった。また、山岡ら(2010)では、中高生でルール設定の割合に大きな違いは見られず、使用に関するルールで「あり」の割合については、料金確認のルールで最も割合が多いが、中高生ともに40%以下であり、本研究の方が「あり」の割合が多くなっていった。近年では、低年齢層での携帯普及率の上昇とともに、家庭での子どものネット利用に対する取り組みが活発になったのではないかとと思われる。

4. まとめ

本研究では、中高生の家庭におけるITメディア利用のルールの実態について明らかにした。中学生の家庭の方が高校生よりも子どものネット利用のルールを設ける家庭が多いが、設定されたルールの内容は共通性が高いことが示された。今後はルール設定状況とそれ以外の家庭や保護者の変数との関連性を検討していく必要があるだろう。

引用文献

山岡あゆち・鈴木佳苗・赤坂瑠以・坂元章・樫淵めぐみ(2010)「子どものインターネット使用問題」に対する取り組み—小学生から高校生の単純集計—. 日本社会心理学会第51回大会(広島大学)発表論文集: 294-295

註)本研究は、最先端・次世代研究開発支援プログラム「ネットいじめ研究の新展開—「行動する傍観者」を生み出すプログラム—」(代表:鈴木佳苗)及び人間発達GCOE公募研究費(熊崎あゆち)の助成を受けて実施され、三菱総合研究所共同研究費(総務省・安心ネットづくり協議会インターネット上の有害情報による青少年等の社会性への影響に関する調査研究, 代表者:坂元章)、及び科学研究費補助金若手B(科研費番号23700809, メディア利用が性意識・行動に及ぼす影響に関する研究, 代表者:樫淵めぐみ)と連携して実施された。